

八清親和会 自治会役員の一とり言

平成30年2月27日

No5

八清親和会 副会長

吉田祐治

2月24日(土)昭島市防災課主催の、平成29年度「自主防災組織リーダー研修会」が、市役所で開催され、八清親和会の自主防災組織員、並びに昭和中学校避難所運営委員会委員として、参加して来ました。

これは、各自治会の自主防災組織のリーダー研修会でしたが、昨年より研修テーマが「学校避難所運営委員会」に直接かかわっている内容であり、どちらかと言うと、自主防災組織リーダー研修よりも、現在進められている「学校避難所運営委員会の活動班リーダー育成研修」としての方があっているように思われた。そのため、昭和中学校避難所運営委員会委員として、非常に勉強になる内容であった。

昨年(平成28年度): 図上演習「避難所の開設・運営に関わる課題と対応」

ー地域住民主体の避難所の開設・運営体制づくりのためにー

今年(平成29年度): ワークショップ

①避難所運営ゲーム「避難所(体育館)での避難者の受け入れ進行」

②「避難所での出来事への対応」

で、特に①は、実技訓練に近い内容で、判断に対する緊張感がありました。

これは、避難所が開設され、体育館を、まず図面で、どのような受け入れ区分けにするかを決め、バラバラに避難してくるいろいろな事情を抱えた避難者(名前等必要事項が記されたカード)、50~100名近い人たちを、いかにして決めたルールに基づき、判断し、受け入れていくかの訓練でした。

また②は、「避難所での出来事に関する」テーマで、発生した出来事に対し、「食糧・物資班長」として、または「保険・ボランティア班長」として、どう対応するか、また「運営本部」として、どのような方策を検討するか、の3課題に対し、班長としての判断、本部員としての対応が求められる訓練でした。

これらの訓練は、リーダーとして、突発的に発生した出来事に対して、避難所の基本的役割がしっかり頭に入っているか、また出来事の裏に隠された問題点などを含め、いかに判断し対応するか、の非常に良い教材であった。

平成30年度の「昭和中学校避難所運営委員会」の図上訓練に是非取り入れたい。

しかし、この「自主防災組織リーダー研修会」についての問題点もあった。

1. なぜ、避難所開設の核になるメンバーを育成訓練している、学校避難所運営委員会委員や、活動班メンバーに対し、このような必要な研修がなされないのか疑問である。

各自治会とも、自主防災組織のリーダーならびに候補=学校避難所運営委員会+活動班メンバーは、同じではないと思われる。

従って、各自治会の自主防災組織から参加した人たちが、このような成果を学校避難所運営委員会の訓練に繁栄させられるのか疑問である。

2. 学校避難所運営委員会の活動班に、必修と思われるこのような研修は、リーダーやリーダー候補だけでなく、学校避難所運営委員会委員並びに、活動班全員に行う必要があるのではないのでしょうか。この内容は、まさに学校避難所運営の基礎である。

3. また、研修テーマの内容をもう少し詳しく案内していただければ、参加していない自主防災組織や、参加させるメンバーの人選も違ってくるのではないのでしょうか。

以上、ある役員の一とり言です。

以上